

◆景況感2期連続プラス：財務省と内閣府が発表した7-9月期の法人企業景況予測調査は、景況判断指数がプラス5.1となった。2-4半期連続でプラス。製造業の価格転嫁が進んだことが要因。

◆橋本チエイン世界最小チエイン：チエイン大手の橋本チエインは、世界最小サイズの「ローラチェーン」を開発、ギネス世界記録に認定されたと発表した。ロボットや医療機器への活用が期待されている。



木材、陶器、大理石から庭園

ARACO (☎075・971・2710) は、特殊塗装(デコラティブペイント)、彫刻モルタル造形の技術を持つプロフェッショナル集団。木材、陶器、大理石から庭園までをホンモノそっくり人工的再現し、街や工場などを明るく元気にする。



彫刻モルタル造形技術

インテリアやオブジェの装飾である特殊塗装部門だ。独自の塗装技術と外断熱材に使われる発泡スチロールを活かした造形物を中心に関連業界から注目を集める。京都府技能士会連合会会長でもある荒木会長を先陣に、プロフェッショナル集団「Hyogensya 蜻蛉」を結成、デザイン性の高い特殊塗装を行う。

ARACO

ブラシ、スプレー、スポンジなどを使って、木目や大理石などの質感を人工的に再現した立体構造物をつくる。また、古びた風情のあるエイジング塗装、トリックアートなども得意とする。店舗や商業施設、テーマパークなどで多くの施工実績を誇る。美大出身の女性職人も入社し、「培ったノウハウを活かして一般住宅、工場や事務所に採用しイメージアップしてもらいたい」と話している。

街や工場を明るく元気に

京都府八幡市に本社、工場を置く。1980年に建築塗装を行う荒木塗装として創業。「よそがやっていない特殊塗装に興味があり、塗装から扉や門扉、注文住宅まで手掛けるようになりました」と、創業者の荒木俊成会長。今では注文住宅、建築塗装、特殊塗装の3本柱で事業を展開、年商は2-3億円でスタッフは約10人。中でも話題を呼んでいるのが、

健康診断の大切さ、糖尿病の怖さ！

糖尿病と企業に潜む罹患リスクについて知り
糖尿病予防を中心とした健康経営に取り組みましょう！

大阪府 中小企業経営者へ訴える

10 健活10
 Osaka wellness action

制作動画を通して、健康診断の大切さ、糖尿病の怖さを伝え、従業員の健康管理が、企業にとってなぜ必要なのかを考えるきっかけになることを目的にしている。

動画は全部で3つ構成されている。中小企業の経営者が主人公。心に訴えかけるドラマチックなショートムービーで、

大阪府は、50人以下の従業員を抱える中小企業経営者に向けた動画での啓発活動を2024年11月から実施する。啓発コンセプトは、行動変化への架け橋となる硬「ドラマチック」軟「ユニーク」を織り交ぜた動画だ。

企業は、従業員の健康管理が重要であり、企業全体の生産性にも直結する。仕事が忙しい、どんな検査をするのかわからないので怖い、と受診しない人の理由は実に様々。糖尿病は、どんな病気なのか、治療をせずに放置していると重症化リスクがある病気であることを学び、事業主が意識改革を行い、健診・受診の重要性を理解する必要がある。

タイトルは「中小企業 若手社長 再生記!~社員と家族のための糖尿病予防~」。

大河ドラマでも注目を集める日本初の糖尿病患者である「藤原道長」を使ったユニークな漫画動画で、タイトルは「もしも藤原道長が社長になったら!~糖尿病予防奮闘記~」

多くの中小企業の事業主・従業員にアプローチするご存じ「竹原編集長」が出演する解説動画。タイトルは、竹原信夫の「経営者が知るべき糖尿病予防のポイント」。

2024年11月以降、大阪府 健活10(ケンカツテン)のHPやYouTube、竹原編集長のSNSなどで公開する。

挑戦! 世界を「あっと」驚かす

エーディエフ(ADF、☎06・6474・9995)は、アルミフレームを使った世界を「あっと驚かす」モノづくりに挑戦。物流ボックス「ダンカーゴ」や簡易クリーンルーム、通訳ボックスなどを開発、ニーズにマッチした製品で元気経営を進める。



エーディエフ

大阪市西淀川区福町に本社工場を持つ。1999年の創業。加工しやすいアルミの特性を活かし、「お客様のニ

用が決定、物流業界に革命を起こそうとしている。また、簡易



クリーンルームも工場や研究室から注目を集める。施設内の中に設置できる屋根付きのコンパクトなタイプで、2005年発売以来、3000件以上の実績を誇る。クラス1000までのク

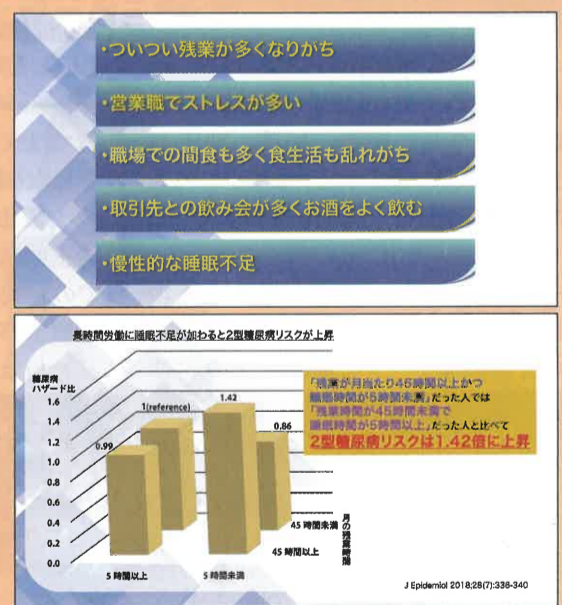
ーズをつかみ、どこにもないもので勝負したい」と

「ダンカーゴ」や簡易クリーンルーム

その象徴的な製品が2004年開発した「ダンカーゴ」だ。折りたたみ式の物流ボックスで、パレットに置くだけで簡単に組み立てられる。段積みができ、輸送スペースを最大限に活用、物流業界の2024年問題にも対応する。

今年8月末にはJITパレットチャーター便として大手運送会社での採

用に対応する。コロナ禍を機に病院内の感染対策として、局所クリーンボックスにも取り組む。東京五輪では同時通訳ボックスを20台提供し話題を集めた。スタッフは約30人、年商は4億円前後。「社員一体で時間をかけて商品化し、発信したい」と、女性スタッフを広報担当に置いてオンリーワンのモノづくりをアピールする。



我が国での糖尿病患者の状況

「令和元年国民健康・栄養調査」の結果では糖尿病患者の4人に1人は治療を受けていないことがわかっている。この中には、糖尿病の状態にあるにもかかわらず診断を受けていない方と、診断を受けたにもかかわらず治療を続けていない方が含まれ、年代別にみると40歳代が多いといわれている状況である。今後、勤労世代(働きざかり)の健診の受診率や治療の継続率を高めることが糖尿病診療の課題だ。

健診の受診率や治療の継続率アップへ